

Title	特許動向から観たPPC市場における技術戦略の分析
Sub Title	
Author	麻生修司(Asou, Shiyuji) 関谷章
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1985
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1985年度経営学 第389号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001985-0389

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 麻生修司 主査 関谷 章
(富士ゼロックス株式会社) 副査 嶋口充輝
所属ゼミナール 青井倫一研 青井倫一

特許動向から観た PPC 市場における技術戦略の分析

本論文の目的は、特許情報により、日本の PPC 市場の技術動向を分析し、わが国の PPC メーカーにとっての望まれる技術戦略を考察しようとするものである。

本論文では、日本の PPC 市場において新たな技術競争が始まったと考えられる、1978年から1984年までの7年間をとり、PPC業界全体、及び PPC の売上高上位3社に関する2次データに基づいて分析を行なっている。その結果、次の様な事が判明した。

第1に、PPCに関して出願される特許情報により、PPCの技術特性は5分類された。それぞれは、基本性能、周辺性能、オペレーターのコピー動作、トラブル、スペース・コストと解釈された。

第2に、特許情報の分析結果に基づき、PPC業界全体、及び競争3社の技術動向を分析した。その結果、業界全体の技術動向は、メンテナンスフリー化に向っている事が判明した。また、同時に、デジタル技術によるインテリジェント化の萌芽が確認された。

競争3社の技術動向では、メンテナンスフリー型と、付加機能追求型が確認された。

第3に、フューチャーオフィスの PPCに対するニーズを、2次データに基づき分析した。その結果、フューチャーオフィスのニーズは、機能重視型、価格重視型、そして、双方とも重視する中間型がある事が判明した。そして、技術との整合性を分析した結果、機能重視型には、オペレーターのコピー動作、トラブルの技術、価格重視型には、基本性能、周辺性能の技術そして、中間型には、特許情報で分析した全ての技術に、さらに、デジタル技術、通信技術を高める事が、望まれる技術戦略である事が判明した。

以上の分析結果を通して、特許情報により、業界及び、競争各社の技術開発は、観察可能なものであり、この分析は、将来の技術予測、新製品予測を可能にする。よって、特許情報は、利用価値の高いものである事が判明した。